

岩屋山 観音たより

発行所：和歌山県
海草郡下津町橋本一〇六五
福勝寺内
電話 (0734) 941-0311
編集人：本多碩峯

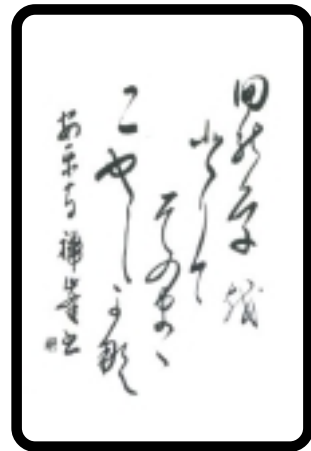
長寿社会の人の死について

修行僧 本多碩峯

今日、コンピュータの出荷台数が家庭用テレビの出荷台数を上回ったそうです。あらゆる産業の機械特に人の生命を預かる船舶、航空機、をはじめ医療機器の分野での判断機能をコンピュータに委ねている現状をどう見るか大きな問題だと思えます。例えば冷房ですが会議室、劇場乗り物等で客が少ない時は冷房がききすぎ、多い時では非常に暑く不快な思いの経験をされていると思います。又家族の団欒の中でも、男性と女性でも、適温という個人の温度差、どんなに優れたコンピュータが開発されても個人の固有の適温度を検出したり客の人数に応じて適温を自動設定することはできない。コンピュータに頼る医療現場ではどうなんでしょうか？本来機械は人間によって操作され判断は人間が行うものであります。現在はスイッチを押せば自動で動き機械は自動で判断し人間に命令する。我々人間は本末顛倒してないか。こんな所に今日の大きな問題があると考えます。実は私の母親は八十三歳で病院で肝臓癌で亡くなりましたが、病院を出るときに主治医、看護婦の皆さんが涙を出して見送って

くれたのです。約十年間肝臓病で近くの医院に通院しておりまして亡くなる四年前頃A型肝炎、亡くなる一年前にC型肝炎、肝硬変、肝臓癌を告げられ病院への入院を勧められたのですが、母親と家族の相談で自宅から百メートル程の所の病院に紹介して頂き、可能な限り通院することになりました。後々私は母親の了解の上、四国第六番安楽寺へ出家の身となりました。その時点で相当悩みましたが、「出家すれば九族救われる」という言葉がありますが、仏に仕えることが一番の親孝行と母親から許されました。休暇で帰宅時にいよいよ通院が出来ないから入院することに、母親の考えを聞きまして、「お母さんは一切酸素吸入はしない。抗がん剤は一切使わないで欲しい。」との強い要望があり入院時、主治医に母親と私が申し入れました。結果としてご理解頂き、最初は大部屋、後個室を自ら希望移ったのです。亡くなる一週間前、妻から連絡が入り安楽寺から許しをえて帰宅、病院で最後の寝泊りを一週間、母と致しました。信心深い母親は僧の姿に喜び、私の般若心経のお経を数珠を繰って唱える姿にどれだけ喜びの表情

真理の花たば



田の草を 取りてそのまま
肥やしかな

四国六番安楽寺長老 大僧正

畠田禅峰

をされたことか、大切な申し伝えと大切な自分の書物、思い出、八十二年の人生をかえり見て「を妻に渡しました。真言宗の位牌には戒名の上に、この

阿字を書くのも

「阿字の子が阿字のふる里立
ちいでて、
また立ち還る阿字のふる里」
の歌が示していること、

私たちの生命は根本仏である大日如来さまの生命の分身として出てきてくるのですから、最後にはまた大日如来さまの故郷に還って行くと思わしています。弘法大師の御本「声字実相義」、「ここでの実相とは本尊大日如来さまとその生命によって顕れている本当の相（すがた）をいいます。

明日への装いを提案します！

寝装・和装・洋装・総合繊維卸

株式会社 マスメン

代表取締役 増田都司夫



本社

〒640-8376 和歌山市新中通2丁目8

TEL (0734)24-4466 (代表) FAX (0734)36-6508

豊かなまちづくりに参加します！

株式会社 田淵建築設計事務所

無限供給の原理に基づく創造！！

代表取締役 木田耕藏

本社

〒640-8287 和歌山市築港4丁目2-1

TEL(0734)31-0261 FAX(0734)31-3898

弘法大師のことば

(前号の続き)

私は修行僧ですが、事業の倒産から、得度出家以来毎朝夕の勤行

(般若理趣経・妙法蓮華経観世音普門品第二十五)、阿息観の瞑想。

広い境内の清掃手入れをさせて頂くことで、やっと弘法大師が我が国にお導き頂いた真言密教の偉大な凄さ、その素晴らしさの片鱗を垣間見ることが出来ました。

弘法大師は密教の大日如来即ちこの大宇宙そのものを神と見る密教、この広大無辺な宇宙は夜空にきらめく無数の星、この地上に生息する人間を含む山河草木禽獣虫魚ありとしあらゆる生きとし生ける一切の森羅万象有情非情、大宇宙はそれ自ら唯一の生きものである。この無限の限りなきいのちをもつて働いている大霊を体得された弘法大師に歓喜あふれ敬い奉る。この宇宙は人のみが苦しみ悩む。生も死も、善も悪も一切をとり込み、私たちが冥く目に見えない実在を仏様と仰ぐ凄さ。生きとし生けるものがこの大宇宙に生まれ生まれ、死に死んでゆく、愛する人との別れ、暗い闇夜、朝が来れば必ず朝日が昇るがごとく、でも五感でも見える人間の知らない人の死、誰一人その行く先

われわれは生まれ生まれ生まれ生まれ生のはじめに暗く

死に死に死んで死の終わりに冥い
弘法大師空海全集第一巻「秘蔵玉論」巻上序をあわせてたり 5頁

宮坂宥勝訳

を知らず冥い。しかし目に見えな
くても太陽のように大宇宙に永遠
のいのちが宿っている。

師匠であります四国第六番安楽寺住職・畠田秀峰氏が「安楽道」に「彼岸(悟りの岸)はどこにある?」と題して、『弘法大師に「空海」というお名前がある。大師は「三教指帰」という御本で、人の一生は「生死の苦海」であると説かれ、この苦海を此岸(迷いの岸)から渡って彼岸(悟りの岸)に至る。そして悟りの岸からふりかえって見ると、この人生は苦しみの海でなく、汲み尽くせない豊かな宝の海。『空海』であった。これが「空海」というお名前の深意である。』又、『森繁久彌さん(俳優)は、先日、八十八歳の誕生日に、(倅)長男・泉氏・享年五十八歳)を肝臓がんで失いましてね。僕も早く死んでしまいたいとすら思いましたが、そんな時に「葉っぱのフレディ」という一冊の絵本に出会いました。大きな木の太い枝に生まれた一枚の葉が

楽しい夏を過ごし、やがて紅葉し、仲間の葉との別れを経験しながら最後には、雪の上に落ちて土に還っていくという物語、「他愛もない話」だけでも、僕は、これを読んで声を出して泣きました」とつ、森繁翁は毎日に元気になられたそうですが、この話に行きつくのに長い悲しみの日々が続いたそうです。しかし、行きついたところが「他愛もない話」(児童の絵本)でありただありのままを受け入れると言ったことだった。：生命に生と死という明暗が同居していることにたとえ気が付いても、その暗い部分を受け入れることはむづかしい。死は誰でも経験できないことであり、それがために、痛みや、不安をともなうからである。深い闇をぬけるために、弘法大師は誰にでも、いつでも唱えられる御真言(御宝号・光明真言等)を唱え、これを人生の旅路の杖として、これにすがり、たよることを説かれたのです。』と書かれています。

今も境内のセミの命も三日といわれていますが、ウルサイと言われながらも三日、やがて秋が近づくとそのうるさがれたセミも静かになつて淋しさを感じる、死に死んで死んで土となり自然に還り明夏が来ると必ず人々に恋焦がれてセミの鳴き声が帰ってくる。時には自分を離れて自分を見る旅(遍路)がしたくなる。

幸せライフのお手伝い!

総合建設業

株式会社 酒井技建

代表取締役 酒井 武 義
〒640-0416
和歌山県那賀郡貴志川町長山 277-68
TEL(0736)64-6776 FAX(0736)64-8908



皆さんのスーパー

株式会社 みち屋

代表取締役 道畑 勇

本 部 和歌山市岩橋729番地の6
TEL (0734)73-4197
FAX (0734)72-4519

松 島 店 和歌山市加納246番地の1
TEL (0734)74-3500

貴志川店 那賀郡貴志川町大字北山517番地
TEL (0736)64-7020

祝 増田都司夫さん (株式会社 マスメン 代表取締役)

南紀熊野風景画展で優秀賞受賞



『木漏れ日』熊野古道の大門坂 (20号S)

(こもれび)

増田さんは本格的に画を描きだして二、三年と聞く。和歌山県立和歌山中学校絵画部(日展特選・故木下克巳先生担当)に学ばれたそうですが、戦災・終戦家業に専念、この二年前、心筋梗塞で入院退院後、実に、五十年目にして再び絵筆を執り出したと伺った。

古希の七十歳を超え、振り返る彼の歩んだ人生を自身の目で確かめながら作品に取組んでいる姿に共鳴せざるをえない。度々絵筆を取られているお姿を見受けたが、今回は特に南紀イベントの公募展に最優秀賞という栄冠の作品喜び溢れる感動を覚えました。

過ぎ去った七十年の時の流れはアツという短い時間であったと思う。そのドラマを創り出す筆のタッチが彼の生きた作品であると思います。
増田さんのもとに、この快挙を知り寄せられた数々のお便りの中に

和歌山県で「ジャパンエキスポ南紀熊野体験博リゾートピア'九」の一環として南紀熊野風景画展を企画、全国のプロ、アマを含む公募展が開催されました。出品作品四百六十三点の中から増田都司夫さんが見事に優秀賞受賞の栄冠に輝き、衷心よりお慶び申し上げます。

『ここまでも続いて行く古道、きれいな色彩、のびのびとした好印象が今も残っています。』

とあり。
又、ある専門家から

『この作品は二十号S(正方形)のキャンバスに描かれている。正方形は写実画にとっては難しい型なのに、実にうまい構図でよく収まっている。それに青に近い緑を主調色として、まとめられた絵である。しかし、今は中央の石段両側に大木があるものの、うしろ側の木は伐採されて若木である。だから昔よりは、ずっと明るくなっている。』

『木漏れ日』は、そんな現状の古道の姿と雰囲気をよく伝えている秀作である』

と称賞されている。

正に南紀熊野体験博の熊野古道は熊野三山(本宮大社・熊野速玉大社・熊野那智大社)参拝への道であります。藤白神社、九十九王子の熊野遥拝所の先が本宮大社、この旅の往復路は人間としての「生老病死」の苦しみ、自己を離れ新たに己を觀せられる南紀の大自然が歓喜と賛嘆を与え、有餘涅槃・涅槃寂靜、生きる喜びを与えたことでありましょう。

今回の『木漏れ日(こもれび)』を鑑賞させて戴くと、遠い昔から、この大門坂は杉の古木がうつそつと繁って何も見えない道筋であったし、暗いその中に、ただ一筋の石段が現代の那智大社や青岸渡寺へとびている聖域であった古へにタイムスリップをして行く。

この大門坂は、時代が変わり状況が変わっても今尚、人生の一齣を表現し勇気付けているような気がします。この光景は誰でも体験する人生「生老病死」の重苦しい状況に孤独感を味わう表現をしている。

しかし、闇夜に朝がくると太陽の光がさしてくるよう自分の明日を示す暗い杉木立の中に、かすかに漏れる太陽の光、石段のようびている人生を示しているように感じるので。

「木を見ないで森を見る」という諺がありますが、登りつめた一段高い青岸渡寺の境内から大門坂を眺めると、うつそつと繁った大門坂の森は南紀州の輝く太陽の木漏れ日の光一杯に照らされているではないか。
作者はスケッチをしながら大門坂の石段の奥に熊野那智大社の本尊千手観世音菩薩を親じたイメージを描こうとも思ったそうです。

増田さんからキャンバスに立ち向かう生命(いのち)の息づかいを感じると共に、粗面の画布に注ぐ光の乱反射で捕らえた色彩が、彼の心の中に描かれた『木漏れ日』の色調でもある。完成までの半年、このキャンバスとの対話の中に、時には祈り、葛藤する厳しくて激しい姿勢を何度も繰り返されたであろう。

人間は生まれ老い苦しみ死んでゆく、この世は苦しみ海ではないか、と思い、本当の自分が見えなくなることがある。

真言密教は生も死も「不二」一つで、死は人間の完成へのプロセスと見る。時には自分を離れ自分を見るために、旅(巡礼・遍路)をしたのでしょ。

宇宙からこの地球を見るときどの星よりも素晴らしい美しさに感動するとい。

私も四国八十八ヶ所徒歩巡礼で素晴らしい自己再発見の体験があります。

是非もう一度、この大門坂の石段の参道を歩きたくなった。

画歴



増田 都司夫
和歌山市新中通2-8
和歌山市に生まれる

- 11927.5.8 和歌山市に生まれる
- 1940 ~ 1945 県立和歌山中学校絵画部に学ぶ
- 1997 ~ 1999 南部町を描く展、絵を描く仲間たち展、Uの会展に出展、並びにライオンズギャラリーに応募出品
- 1997.11.23 第16回和歌山の風景絵画展 奨励賞受賞
- 1998.11.29 第17回和歌山の風景絵画展 奨励賞受賞

素晴らしい真言密教の瞑想

空海の『般若心経秘鍵』に、

夫れ仏法遙かに非ず、

心中にして即ち近し。

真如外に非ず、

身を棄てて何んか求めん。

迷悟我に在れば、

発心すれば即ち至る。

明暗他に非ざれば、

信修すればたちまちに証す。

とあります。



求聞持堂前で阿息観の瞑想を実修する本多

私は長い間、神想観を実修してきまし
たが、出家以来真言密教の瞑想を止し
く実修すべく本山の瞑想研修会で字
び、やっと念願が果たせることにな
る。

発心(菩薩としての目覚め)し、信
じて瞑想と呼吸法を修すれば、必ず人
生が変わり心身の安楽を図ることが出
来る。と確信するのであります。

一九七六年マイクコンピュータ草
分け時に創業し、ベンチャー企業とも

てはやされ上場準備に入るもバブル経
済に捨て去られ倒産、真剣に悩み苦し
み、四国八十八ヶ所を徒歩巡拝、師を
求め我が心の過ち、出家するも新たな
苦惱、平安な道を求め、日々の勤行・
境内の清掃に一心に修する。その間、
何度も自信を失い、挫折を味わい、そ
の挫折のたびごとに、郷里の雨錫寺の
境内に建立させて頂いた十一面観音の
加護によって助けられた。



郷里雨錫寺に建つ観音

うれしいなあ、ありがたいなあ、
あなた観音、あたし観音。

妻・栄子作

「ご縁を戴き、不思議に千手観世音菩
薩を「本尊とする福勝寺を預かって一
年、最近、正しい呼吸法が生活に如何
に大切かを実感する。心がこだわった
りたらわれた状態のとき、呼吸が乱れ
ていることに気付く。禅宗の座禅は白
隠禅師の書「夜船閑話」に「目を閉じ
れば、妄想が強くなる故、目は開いて
いるのがよろしいので、口は結びきり
にして、舌を上顎にあて、おいて、

無声で考案を拵じて行くのじゃ。それか
ら背梁骨直立する。おつたてると云っ
て、背骨のがくりと折れて居らぬやう
ぐつと真直ぐに押し立て、下腹を少し突
き出すやうにし、鼻と臍と対し、耳と肩
を対すると云つに、定木をあてれば真直
ぐになるやようにするので、頭の天辺か
ら長い大きな針を挿し通したように身体
を真直ぐに構えるのじゃ。息は鼻から
細く出入させて、荒い息をせぬよう
に、又息に心をかけぬやう考案の方へ充分心
を入れて、息は自然に考案と共に出入す
るようにして行くのじゃ。息で練る気
であると、考案と息と二つになる。少しも
息に気をかけずに、只考案に力を入れ
て、下腹で練り込んで、此の考案で尻の
穴をぶち抜き、大地をぶちぬいて、地軸
のどん底まで、ぶちぬく心持で、しっか
り、しっかりと練り込むのじゃ。さうし
て息を無理に長く詰めていきむのは甚だ
悪い。息は自分の精一杯に、適宜に出入
させる方がよい。息には力を入れぬよう
に、考案にしっかり力を入れて行く。こ
れが座禅の仕方である。」と説かれてい
ます。

真言密教の瞑想と座禅との違い
最も異なる点は瞑想は心のとらわれやこ
だわりを一切排除した状態を大切にしま
す。瞑想の究極(私見)の虚空蔵菩薩求
聞持法のご本尊の御相(すがた)仮に五
感の世界で人前であつてはならないとき
れる御相をしています。でも三歳位のお
子さんがすれば、多分、「人前こんな
お行儀の悪いことをしてはいけません」



有限会社 ミヤタケ

代表取締役 宮下隆博

〒640-8329
和歌山市田中町4-119
TEL(0734)22-2327 FAX(0734)36-5598



人に優しい音声発生装置!

有限会社 日本メディテックス

代表取締役 山口昭昌

〒641-0054
和歌山市塩屋5丁目5番43号
TEL(0734)46-2009 FAX(0734)46-3696

と注意を受けながら許されますね。三歳以下のお子さんはすべてを許されますね。三歳のお子さんの心は本来とらわ



虚空蔵菩薩 (福勝寺求聞持堂)

「仏像の御姿は私たちの深心の相(すがた)を顕現している。」

れたり、こだわったりする心を持っていません。この頃からとらわれたり、こだわったりする心が育つのです。「幼児の心」は純粹で仏の心です。虚空蔵求聞持法(実践体得した僧でない)と真の理解が出来ない)は記憶する能力を高める術「記憶術」と言われ、その心は何事にもこだわらない、とらわれない心、執着すれば記憶など出来ませんね。即ち仏心で同じ真言を百万遍唱える。三密(身口意)一即他、物事の記憶の真髓であります。そこで真言密教の瞑想は微細な世界が即ち大世界であり大世界は即ち微細な世界であると、その大世界(大宇宙)を大日如来の仏でありと体得する行であります。真言密教の瞑想もその観法本来非常に複雑、作法、多くの印、真言を使いますので一般の人には出来ませんが本山で

一般向け講習会があります。ここではその瞑想で比較的簡単に取り組め、密教の真髓にせまれる「阿字観」、本来の基本姿勢は胎蔵界大日如来の御姿(結跏趺座・半跏座)ですが、勿論止座良し、病人は床に寝たまま良し、手足無き人声が出ない人すべてこだわらない、とらわれない心の姿勢で着座し、この広大無辺で荘嚴な大宇宙も仏、生きとし生けるもの、その微細な細胞も仏であると観想し、「蓮華は泥の中にあっても浄らかなように、この私の身も心も、本来清浄である」と観念するのです。現在の私はすべての根源は呼吸にあり」の信念を持って阿息観を日々実修しております。呼吸法は座禅の丹田呼吸と同じですが、吐く息、吸う息に、ひたすら命の本源(大日如来)である「ア(ア)の声を唱えて天地と呼吸(ア)の声を唱えて天地と呼吸を合わせ」の声と一つになつて宇宙の大生命を感得するのです。現在の現象世界は子供から大人まで何かと心のストレスの多い社会です。是非瞑想の素晴らしさ、即ちとらわれない心、こだわらない心を体得する事は大宇宙の仏と一体になることであります。先ず、発心するとは信ずると言つことと心を浄らかにする事です。その心は仏を作ることであり大道を得ることです。最初に述べました空海のことは「発心すれば即ち至る」とありますように先ず心を発することによつて、波動が生じ、それが周囲に伝播し、

大きな波動となつて、人を動かし、組織や社会を動かす力となつていくのです。瞑想からは、個人の変化だけでなくそれ以上の大きなエネルギーが生み出されるのです。「明暗他に非ざれば信修すればたちまち澄す」。信じて修していくことにより結果が現れるという。道元禅師「学道用心集」の中で「信」について次のように述べている。

仏道を修行する者は、先ず須(すべか)らく仏道を信ずべし。仏道を信ずる者は、須らく自己、本(もと)より道中にある、迷惑せず、妄想せず、顛倒せず、増減無く、誤謬なきことを信ずべし。かくの如きの信を生じ、かくの如きの道を明らめ、よつてこれを行す、乃(すなわ)ち学道の本基なり。

仏道を修行しようとする者は、先ず仏道を信じなければならぬ。仏道を信ずる者はまず自分が本来もともと仏道の真只中にある、迷つことも惑うこともなく不増不減であり、誤りが無いのであることを信じなければならぬ。道元禅師は、本来成仏してい

ることを信ずるのが真実の信であるという。自分は迷っている、けがれていると考えるのは浅はかな凡夫の考えにすぎない。自分自身は仏道の真只中に生かされているからこそ無限の修行を必要とする。道元禅師の仏法である。瞑想も同じく無限の実修が必要である。

心は工画師の如し種種の五陰を画き、一切の世界の中に、法として造らざるも無し。心の如く仏も亦爾なり仏の如く衆生も然なり心と仏及び衆生とは是の三差別無し。

解釈「心は巧みな画師のように、種々の心と形を画き、世界の中にどんな形も創りだすことが出来る。仏も衆生も心がどんなものでも創りだすのと同じはたらきをす。そこで心と仏を衆生は区別がない。仏が一切のものが心が転じたものと悟りたもう。このことを悟れば、真の仏を見奉ることが出来る。」

「夜摩天宮菩薩説偈品」華嚴經

縁起

(一)

重要文化財(本堂・求聞持堂・他)

(高野山真言宗 岩屋山 福勝寺)

浄土真宗紀伊半島発祥の寺

縁起とは

私たちは普段、今日は縁起がよいとか、そんなことをすると縁起は悪いとか、何気なくよく使う。実はこのことばは仏教の根本仏教理念を表すことばです。仏教では



此あれば彼あり、此なければ彼なし。
此生ずれば彼生じ、此滅すれば彼滅す。

これはいったい何をいつているかといえ、ものごとの相依相関の関係をいつているのである。Aを縁としてBが生じることをいう。すべてのものは何かを縁として存在しているのであり、この福勝寺も大自然の木や土、それに弘法大師いなくては存在しない。

仏教は他の宗教のように神が世界中のものを造ったというよきな絶対的創造神や絶対唯一のものから世界が派生してくるといような生成論も主張もしない。仏教ではどこまでも現実に存在している人間、山川草木、鳥獣虫魚のすべてに着眼する。その存在するすべてのものが縁によっていることを見きわめるのが仏教のねらいであります。縁起とは「持ちつ持たれつ」の原理」ともいえます。

「縁起を見るものは法(真理)を見る、法を見るものは縁起を見る」といわれるように、縁起の考え方は、仏教の根本思想であるとともに仏教に一貫している原理である。

人間の相互関係、

人間と自然の関係

人間同士の関係だけでなく人間と自然の関係もまったく相互関係にあります。自然界の法則を無視して自然を乱開発した時、自然は人間に手痛いお返しをする。人間と自然は対立する存在でなく、どこまでも大いなる融和を保つ存在でなければならぬ。自然と人間、人間相互が安住する平安な世界が縁起している事実を知ることあります。

蓮如上人と福勝寺

浄土真宗 本願寺第八世 蓮如上人が熊野へ何度もご参詣され、当寺福勝寺をご宿泊の場所とされてきました。その時、子供に恵まれないことに悲しんでいた冷水浦(現海南市冷水)の飯盛喜六太夫が当寺、観世音さんにお参りしておりました。ある日、喜六太夫が他力念仏(他力=仏)説く立派なお方(蓮如上人)がお参り、ご宿泊されることを聞きつける。

次号に続く

碩峯の写経・法話

九月行事

九月十一日

一、写経会(会費一千元)

午前十時～十二時

一、法話会

午後一時～三時

十月行事

十月十日

一、写経会(会費一千元)

午前十時～十二時

一、法話会

午後一時～三時

編集後記

法

私たちは大自然にそのままに生きるとき、現象界の定(法律)を犯すことはない。正す仕組みが裁判ではないでしょうか。

仏法(真理)を生きる姿勢は「懺悔、感謝、報恩」の生活と言われる。

和歌山地方裁判所所長中西武夫氏が休暇を使って和歌山の神社仏閣、熊野古道を歩かれる姿に感服される。

公正取引委員長・根来泰周氏は和歌山市鳴神の玄妙寺の長男(住職)ですが私より三歳ほど下ですが根来氏は小学生の頃お盆には小坊主姿で近所を一人一軒一軒廻られたことが思い出される。